

上顎洞底挙上術・骨造成症例等における難症例に対する攻略テクニックが満載！

インプラント治療 難症例攻略テクニック

著者

水口 稔之

Toshiyuki Mizuguchi

CONTENTS

Stage I 上顎洞底挙上術における クレスタルアプローチ攻略テクニック

オステオプッシャーの基本概念

ラテラルか？クレスタルか？

オステオプッシャーの基本的術式

VBW による手術法の選択について

ダークシェードによる目視

チャンネルテクニックによる目視

オステオプッシャーによる上顎洞底挙上術の成功率と生存率

スリットリフトテクニック

スリットリフトの術式

スリットリフトの特徴

スリットリフトの結果と考察

上顎洞底挙上術に必要な上顎洞病変の知識とその対処法

上顎洞病変とその対処法の考察

失敗症例へのリカバリー

Take off socks method

骨吸収について

Stage II GBR における難症例攻略テクニック メンブレンも自家骨も使わない骨造成

N2 Graft (No Membrane + No Bio graft material) 概論

No Membrane

No BioMaterial

N2 Graft

N2 Graft 症例編

N2 Graft 実践編

N2 Graft の要件

① 血液供給の確保

② 骨補填材

HA の種類

③ 粘膜による完全な封鎖

1) 剥離

2) 減張切開

3) 縫合

④ 外圧遮断

それ以外の外圧遮断

N2 Graft 設計編

バスタブテクニックと骨造成の信頼性

一般的な GBR

バスタブテクニック

考察



定価：9,500 円＋税

発行 / ゼニス出版 A4 変形

2014 年 1 月発行

上顎洞底挙上術あるいは一般的な骨造成に限らず、骨造成という処置には越えなくてはならないハードルが存在します。

1 つは技術の問題で、骨造成には高度な技術とスキルが必要になります。その困難さのために骨造成を回避する術者も少なくないのではないのでしょうか。そして、2 つ目のハードルとして、患者への侵襲があります。通常埋入に対して骨造成を伴うインプラント埋入は、患者に大きなダメージを与えることも事実です。そのために骨造成を回避する患者と術者も多いのではないかと思います。このように、骨造成を行う際には、この 2 つのハードルを越えなければなりません。そして一方では、これらのハードルを低くする努力も必要であり、そのためには新しい技術や術式の開発も必要になってきます。

本書は、歯槽骨あるいは上顎洞底部への骨造成などにおけるハードルを限りなく低くするためのテクニックを網羅した一冊です。

ご注文は



デンタルブックセンター

シエン社

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-1-10

Tel.03-3816-7818

Fax.03-3818-0837

<http://www.shien.co.jp>